

はい！

やくも町議会です

第87号
令和7年12月

編集／議会広報広聴常任委員会

八雲町議会新体制がスタート



令和7年10月19日八雲町議会議員選挙が行われ、14名の八雲町議会議員が選出されました。うち、新人議員が3名当選し、新たな体制で八雲町民の幸せと八雲町の発展を目指して、議員一丸となり、全力投球で頑張ります。どうぞ応援してください。

令和7年11月11日に臨時会（当選後の初議会）が開催され、議長、副議長、各常任委員会の構成などを決定しました。（詳細は17ページに掲載）

主な内容

	ページ
○決算特別委員会について	②
○5名の議員が町政を問う（一般質問）	⑧
○議決・賛否一覧他（定例会・臨時会）	⑯
○常任委員会の活動（所管課報告）	⑯
○八雲町議会新体制について	⑯
○3期12年間町政を担った前岩村克詔町長（耳をすまして）	⑯



ホームページアドレス <https://www.town.yakumo.lg.jp>

町民の幸せにつながったか？

令和6年度決算審査

右のQRコードから決算委員会の中継を見ることができます



1日目

2日目

3日目



牧野 仁 委員長

【総括質疑】

Q R6年度の決算における成果と課題、報道による自己採点30点の理由は何か。また、八雲町には

魅力があると思うが、この町の伸びしろをどう考えるか。（赤井）

A 成果としては、近隣町に比べ人口減少率が低かつたこと。それは、雇用の場の確保ができたこと

による。ふるさと納税がある程度維持できること。課題は企業訪問ができなかつたため、企業版ふるさと納税が減少したこと。

八雲町においてふるさと納税は貴重。自己評価30点は、企業誘致に町の支出が多かつたこと、医師確保ができなかつたことが主な理由。

八雲町の伸びしろは新幹線。予定通り開通していただけ、医師の確保を始め、いろいろな企業誘致ができていたが、開通が伸びたので、今後も企業誘致や省庁分化に向けて民間の立場でも、全力で協力していきたい。（町長）

【総務費】

新役場庁舎等整備事業

Q 役場新庁舎に地元の木材はどの程度使われるのか。できれば地元の木材を多めに使ってほしい。（倉地）

A 地元木材を多く使いたいと我々も思っている。配慮していただきたい。（新庁舎建設推進室長）

自動車運転免許証自主返納支援事業

Q 運転免許証自主返納者ハイヤー利用助成金について、予算額が231万8千円に対し、決算額は132万円。自主返納の利用者が少ないと思われるがどのように捉えているのか。（斎藤）

A 每月、コンスタンントに請求はある。今後の推移としては、現状維持と見込んでいます。（交通防犯係主査）

A この制度は申請から3か年継続するものだが、入院や施設入所

等で途中で止められる方もいる。申請数も使用数もその時々で変動するが、できるだけ固く見積もっている。（危機対策課長）

地域おこし協力隊事業

A 19人分予算化していたが、7人減で執行残が出た。今後も募集業務を工夫し、魅力ある取り組みを目指す。受入先が決まってから募集をしている。地域で必要だという声があれば対応に向けて協議することは可能。（政策推進課長）

Q 今後の見通しは？（赤井）

A 19人分予算化していたが、7人減で執行残が出た。今後も募集

業務を工夫し、魅力ある取り組みを目指す。受入先が決まってから募集をしている。地域で必要だという声があれば対応に向けて協議することは可能。（政策推進課長）

Q 他の自治体では、挑戦したいことをやってみて！という募集をしていているところもある。八雲町では出来ないのか？（三澤）

A 八雲町は確実に移住・定住に繋げていきたいので、そうした取り組みは現段階は考えていない。（政策推進課長）

Q コミュニティ助成事業

A 町内会加入1世帯あたり500円を助成しているが、町内会に加入しない世帯が増えている。全町の何%が町内会に加入しているのか。（大久保）

A 八雲地域が5018世帯、熊石地域が962世帯、合わせて5980世帯で約74%が町内会に加入している。（政



関口正博 副委員長

Q 加入率が低いのに、この計算があつても、街路灯料金は町内会が払うなど矛盾が生じている。たとえば災害時の助け合いのよいに、何か町内会に入つて有利であるということを見極めたい。(町長)

A 町内会に入つていい世帯が年々、町内会に入る世帯が減つていて。メリットを打ち出そつとするが、理解されず、脱退、解散が相次いでいる。例えば、町内会加入者に生ゴミの収集袋を配布するのは好評だが、各町内会が存続しやすい施策を考えていきたい。(大久保)

Q 地域会館整備事業 備品に対しても補助金が出るルールとなつたのか。災害備蓄品は認められるのか。(赤井)

A ルールを決め、各町内会からのか使わない物は災害備蓄で対応するが、具体的な区別はまだ明確ではない。(政策推進課長)

Q 津波避難計画改定事業 この事業は完成したのか。内容は7月30日の津波警報避難にどれくらい活かされたのか(赤井)

A 3月に完成し、これから取り組もうという矢先の避難だったのでもうと認識している。(危機対策課長)

Q ふるさと応援寄附金積立金 ふるさと応援寄附金積立金

Q ふるさと応援寄附金積立金は、金額が下がる可能性が高い。寄附金上位の自治体には、八雲より人口が少ない町もある。そこは、ふるさと応援寄附金の新たな可能性を探ることなどを外部発注している。これまで外部発注を検討したことはあるか。(関口)

Q ふるさと応援寄附金積立金 検討したがなかなか難しく、議論が進まなかつた。

A 4月から8月末まで221件。概算ではあるが全体の契約数は235件で進捗率は94%となつていて。(会計課長)

Q キヤツシユレス決済導入事業 始まつて1年(令和6年度から)になるが、進捗はどのくらいか。(大久保)

A 昨年の11月から開始され年度をまたいだ8月末の件数は7297件。住民票等戸籍関係の書類を発行している。このうちキヤツシユレス決済の件数は878件、利用率は、12%になつていて。(会計課長)

Q 電子契約導入事業 110万円という予算が付いていたのに、なぜ0円なのか。(佐藤)

A 見積合せを実施した結果、導入費用が1円、利用料が1円の計2円の見積金額だつた。今回契約した業者については、道内では15自治体が契約し、北海道も同じ業者との契約になつていて。(会計課長)

Q 令和7年12月号

〔3〕 令和7年12月号

Q 税金の支払いには対応できないのか。（大久保）

A 決まった金額の手数料しか対応していない。固定資産税や軽自動車税は（地方税統一）QRコード（QRエルーキューアール）を利用してスマートフォン等から自宅でキャッシュレス決済できる。今後は、税目を増やすことを検討している。（会計課長）

Q 水道料金はキャッシュレスが進んでいない。足並みを揃えないのか。（大久保）

A 一般会計と企業会計はシステムが違うので簡単に出来ない。（会計課長）

A 将来的には、QR決済を導入したい。令和8年度までは今のシステムを使用することとなっており、令和9年度以降に対応できるか検討していきたい。（環境水道課長）

証明書等コンビニ交付事業

Q コンビニで証明書を出せるようになつたが利用状況はどうか。（佐藤）

また、見込んでいた利用数と比較してその進捗状況はどうか。（佐藤）

A 2月に開始し、8月の時点で、毎月約90件の利用で、住民票と印鑑証明の交付である。利用状況の

予定数は想定していないが、年間の証明書の発行件数が約1万6千件まだ少ない。（住民生活課長）

Q 熊石地域デジタルリテラシー向上事業

A Q デジタル機器の使用方法の講座や研修など、毎週水曜日等、熊石3箇所で北海道の補助制度を活用して実施している。集学校に委託しており、開催数は、90回で、利用者は400人弱が利用している。

携帯電話の操作方法などが主な内容。（地域振興課長）

A Q 八雲側でもできないか。取り組みは必要だと思うが。（閔口）

A 八雲地域は国の補助の区域外となつてはいるが、例えば、教育関連分野での新たな仕組みや新たな業種への支援などは、今後考える。（政策推進課長）

Q 社会教育、生涯学習の範囲であれば教育関係から国等の補助金を活用できるのでは。（三澤）

A パソコン教室等の支援はすでにやっている。ほかに要望があれば支援はできるものと考える。（政策推進課長）

Q コンビニで証明書を出せるようになつたが利用状況はどうか。（佐藤）

A 2月に開始し、8月の時点で、毎月約90件の利用で、住民票と印鑑証明の交付である。利用状況の

【衛生費】

風疹しん加的対策事業

【昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性で風しんの予防接種を受けていない方が対象】

A Q 検査対象者数が1850人、受診者数649人。令和6年度は検査人数62人に対し、接種人数が19人。接種者が少ないのでないか。今後はどうするのか。（佐藤）

A Q この制度は令和7年3月31日まで令和6年度をもつて終了とされている事業であり、継続はありません。（保健福祉課長）

A Q 検査して抗体があるかないかで接種するものなので、結果、接種人數が少ない（三澤）

【労働費】

U・Iターン就職奨励金事業

Q この制度は一度立ち止まつて見直すとしていたが、今後の方針は。（佐藤）

A 令和8年度も継続することになつた。【50歳未満で1年以内に町内の事業所の正規雇用になつた】

者。社会保険に加入されていること等が条件。】早期退職に対する奨励金の支出については、制度変更に向けて精査している。（商工観光労政課長）

【農林水産業費】

農作物有害鳥獣被害防止対策推進事業

Q 農作物被害の軽減を図るために侵入防止柵（電気牧柵）を設置に対する補助だが、クマの出没が頻繁な現在、もっと予算を付ける必要があるのでないか。（佐藤）

A Q 昨日の夜も落部地域にクマが出た。熊石地域は八雲地域以上にクマが出ている。また、シカの出没も多い。これらの現状を踏まえたうえでの予算措置は必要と考える。（町長）

Q 電気牧柵の設置実績について、

A Q 決算では5件、今年度予算では10件となつてはいるが、上限15万円では、足りないので。（倉地）

A Q 畑を守るための電気牧柵であり、頻繁に出没するような場所や人的被害が起きないように対応をしていく。（町長）

Q 上限15万円というのが使いづらいのではないか。電気牧柵は設置した後も、漏電防止のための草

刈りや除草剤も必要だ。上限額を上げるべき。申し込み段階での希望者の声は、どんなものがあるか。（三澤）

A 1戸当たり15万円、10戸分を想定して150万円の予算としている。2分の1が上限なので事業費30万円の半分を補助している。当初はこの制度設計で5ヘクタール程度の畠に対応できるものとしていた。しかし、昨今の物価の上昇等で5ヘクタールまで対応することが困難になってきているものと考える。今後は、設置補助の拡大や適切な設置方法、管理方法も含め対応を考えていく。（農林課長）

有害獣駆除対策事業
狩猟免許等取得費補助金
Q 有害駆除の実績は予算を残している。更に狩猟免許取得実績0円。想定された頭数が捕獲できるよう、罠猟や取得対象を増やすなどの工夫が必要ではないか（三澤）

A 6年度は狩猟免許取得の希望がなかつたが、今年度は今のところ2名から相談がある。捕獲の報酬費で鹿は上回っているが、熊が低下。出動回数が減つたこともあら。罠猟の補助要請は今のところない。今後も獣友会と相談しながら

ら進めていく。（農林課長）
Q アライグマ対策も工夫が必要ではないか。また、出動費の値上げも必要（三澤）

A 6年度の捕獲はなかつたが、7年度は、箱罠で5頭のアライグマを捕獲している。出動報償費は、4年度に見直ししているが、銃弾の値上げ等もあるので、ハンターと相談しながら対応していきたい。（農林課長）

Q 熊の駆除に対する法律が変わった。そのことで、関係者間の対応はなされているのか（大久保）

A 緊急獣猟ということで、9月から法律改正されるが、5月に警察やハンター、総合振興局、役場関係者で訓練を実施。今後、近隣町含め八雲町で関係者と訓練を行う。（農林課長）

Q 万が一、家屋等に損害を与えた場合の補償はどうなっているのか。その場合の責任者は誰になるのか。町職員で狩猟免許を取得している職員は何人か。今後増やすべきではないか。（大久保）

緊急獣猟において物損があった場合のために、自治体が保険に加入し保障する。人身事故は国家賠償法に基づく保障を実施自治体

が行うこととなつていて、最終的には町長が責任者。現在の免許所有者は4名。免許の補助制度の周知も検討していきたい。（農林課長）

Q 八雲警察署はどういった立ち位置で加入するのか。（三澤）
A 職務執行法により、警察官の命令で発砲することは出来ることになつていて、協力体制は構築されている。（農林課長）



コンブ資源増大事業

Q この事業の概要を改めて教えていただきたい。（関口）

A 八雲管内は、スピアバッくという袋状のものにコンブの母藻を入れて、適正な漁場に投入し、コンブ発生を促す取組。落部管内は、地域のコンブ漁場の環境調査に水中ドローンを活用して実施している。（水産課長）

Q 天然コンブの資源は少ない。今年、八雲管内で1番水揚げの多い山越地区でも1週間程度、落部

地区においては、1日で漁が終わっている状況である。

今、落部地区では、養殖コンブの取組が始まっている。この養殖事業を熊石地域も含めた八雲町全体でしっかりと行政としてコンブの生産について取り組むべきと思うが、どう考えているか。（関口）
A 現在、コンブ礁の整備が進められているが、落部管内では養殖試験も行われている。コンブは海水の高水温化により水揚げが減少している。養殖では、コンブ種苗の確保が難しくなっていることなど課題が多い。漁協や北海道と相談していきながら支援を考えていきたい。（水産課長）

Q コンブ礁には昨年コンブが付かなかつたと聞いているが、原因は何か。（黒島）
A 令和2年から落部、山越に50基ずつ、現在350基が整備されている。令和2年度から5年度に整備したコンブ礁には、全体で約84%繁茂している。また、アイナメ、メバル類といった魚種、ウニ、ホヤ等の動物類も確認されており、施設整備の効果は発揮されている。

Q コンブ礁（アルガリーフ）は、（水産課長）

きれいに掃除しないとコンブの胞子が付かない。せっかく何億円もかけて毎年施設を整備しているのだから、有効的に漁業者が水揚げできるような方法を考えるべきだ。

今後、どのようにしていくのか。
(黒島)

A アルガリーフは一定期間経つと効果は薄れる。どのような管理方法がいいか設置者である北海道や水産普及指導所、コンブ礁を開発した業者に情報提供いただきながら、関係機関と検討していく。

(水産課長)

Q 以前は投石して漁場造りしていた。コンブの成長もいいし、胞子の付きもいいと聞いている。このようなコンブにふさわしい漁場づくりも考えてもらいたい。
また、熊石地域の水産試験研究施設において、コンブ種苗を作る際、お湯が必要とするが、ボイラーレーが小さく、種苗ができるないと聞いている。どのような状況になっているのか。(黒島)

【土木費】

Q 公園の考え方だが、近年、気

できない。(産業課長)

【商工費】

商工振興事業費補助金
中小企業育成資金保証料補助金
町内事業者経営安定支援事業
中小企業等設備導入支援事業

Q 町長は企業誘致にばかり力を入れていると思っていたが、これら

の補助金を見ると地元企業の事も考えていることがわかった。これら

の事業を通じて持続可能な取

り組みになっているのか(赤井)

A 企業誘致に力を入れてきたのは確か。しかし、地元企業においても雇用拡大、働く場所の確保は考えてきた。地方創生の中で民間も使える補助金も出来たので、今後商工業者にPRしながら、事業

継承が図れるよう対応していく。
い。ペコレラが独立したのは一つの成果だが、これだけでは足りない。今後ふるさと納税の商品を増やしていくよう、民間の力も借りていく。(町長)

A 映像制作放送について、尾張

温が高くなりすべり台が熱くて使

用できないなど気象条件が変化している。

八雲地域は水辺で遊べる場所がさらんべ公園しかない。プール以外にも水に親しめる場所、涼めるような場所があつても良いのではないか。(大久保)

A 水とふれあう場所、雨が降つても子供が遊べる場所は必要であると考える。徳川公園は、水で遊べる場所、日陰等を整備する場所に適していると思うので今後、検討していく。(町長)



【教育費】

木彫り熊百周年記念事業

Q テレビ放映において、この予算の効果はあったのか?(赤井)

A 映像制作放送について、尾張

発祥、木彫り熊の歴史の3点について、歴史資料に基づき24分の番組として制作した。この番組と八雲町のPRをチラホやホームページ等で行った。(社会教育課長)

Q 木彫り熊が注目されたことは公の力も大きいけれど、近年民間で関わっている人たちの力も大きいと思う。そうした人たちとの連携も必要だったのではないか。(三澤)

A 木彫り熊の歴史とPRが目的だったが、もっと多くの意見を入れるべきだったと深く反省している。(町長)

地域部活動推進事業

Q 予算39万6千円のところ12万6千円の決算。研修会等を行って

いくと聞いているが、今後さらに進める考えはあるのか。(倉地)

A この金額は検討協議会委員の謝礼分。検討協議会が今後継続するかどうかは検討中。(体育課長)

Q 6年度は予算内で間に合つてないが、近年、米を含めた食材費の高騰に現状で対応できるのか。

近隣町との比較でどれくらいの位置か。(大久保)

A 6年度全体の決算では、食材

ガスで温めていることから、その作業に時間がかかるため少量しか

賄い費で切迫している。6年度は7%値上げをしたが、現時点では、食材が12%値上がりしているので、状況に合わせて値上げも考えられる。(給食センター所長)

歳入

収入未済額について

Q 収入未済額が毎年あまり変わらない。不納欠損に繋がっていくと思う。どう考えるか。(斎藤)

A 一定の方が滞納している。無財産や生活困窮者などである。一定期間経つと不納欠損に至つている。(財務課長)

国民健康保険事業特別会計

Q 保険給付費が前年度比約7千7百万円減となっている。会計全般にわたり積立金(基金)もあり、良かっただと思うが、診療報酬減収はどのように受け止めているのか。また、レセプト点検はどうなっているか。(斎藤)

A 後期高齢者医療に移行した方が多いので、医療費が下がつたものと思われる。レセプトの点検は

Q 以前から続いているが、漏水が改善されない。町にとつても住民にとつても経費が無駄ではないか。(佐藤)

A 漏水は管の老朽化が主な原因。夜間に見守り、漏水箇所の調査を行い対処している。過去に行つた調査では、事業者へ委託し、大きく調査、修繕を図つたが、さらに新たな漏水が発生し、その効果は限定的であった。

現状は、地元に緊急対応可能な事業者がないことから、町の直営等で復旧を行つてている。水管については、下水道工事の際にほぼ入れ替えが終了していることから、各家庭に引き込む部分での漏水が主な原因であり、事前に把握することは困難である。(地域振興課長)

病院事業会計

Q 病院のホームページを見てみると地域医療ブログに「大規模地震時医療活動訓練を行なう人材の確保等の人的支援はできないか。(赤井)

A お金だけでなく、そのとおりだと思う。病院と協議しながら進めていきたい。(町長)



熊石地域簡易水道特別会計

国保連合会に委託している。(国民健康保険係長)

Q 有収率32.9%という数字は深刻ではないか。7割近い水がお金に換金されないままどこかに行つてしまっている。抜本的な解決には、管を入れ替えるのに、これだけの費用が必要であるから、計画的に修繕していくことを示すことも必要ではないか。住民に水を供給し続ける責任を負つていて大変だと思うが努力してほしい。(三澤)

A 事前に枝管部分を掘り起こして調査していくには、相当の費用がかかるものであり、対応としてはできない。有収率が低いという現状は、担当課としても、いい数字とは考えてはいない。少しでも有収率が上がるよう対処したい。(地域振興課長)

A 大規模地震時医療活動訓練を評価していただきたいことはあります。一方で広く一般町民に伝わっていないことは残念に思う。今後は、当院の情報発信の仕方を検討したい。(総合病院事務長)

Q 町として一般会計からの繰入金以外に手助けできることはないか。病院の情報発信等を専門的に行う人材の確保等の人的支援はできないか。(赤井)

まり読まれていないようを感じる。SNS等を有効活用し、もつとアピールしていくことで、総合病院で働くという入口、人材確保につながるものと思うが、今後の取組はどのように考えているのか。(関口)

一般質問

町政を問う！

※今回5人の議員が質問をしました。質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。

華やかであるが「力量」が問われる。

Q

八雲町は差別の無い町になれないのか？

みさわ きみお 公雄 議員

町長 私は、これまでに2度『差別の無い町』宣言ができないのか？と町長に質した。その都度、「前向きな答弁を貰っている」と思っているが、現在の進捗状況を伺う。

町長 当町では、これまで障がい者差別禁止や女性の活躍推進に係る取組を進めると共に多様な性のあり方への理解を深めるセミナーを開催するなどして、人権に関する啓発をしてきた。

特に当町には、7月末現在約500名の外国籍の方々が暮らしており、今後更に異なる文化や考え方を認め合う多文化共生の意識を醸成していくことが求められ、共に安心して暮らせる地域社会を築くためにも、差別や偏見を許さないといふ姿勢を明確に示すことは不可欠

と考える。
ただし、宣言は単なる言葉にとどまるものではダメで、具体的な行動計画や施策と連動することに意義があると認識はしているが現時点で全庁的な研究や体制は整っていない。

今後は、町民の理解と協働を得られる体制づくりを進めながら、差別の無い町の実現に向けた行動計画を策定し、適切な宣言へとつなげていきたい。

「全庁的な研究体制がまだ辺まで進んでいるのか？人選を含め」との答弁だが、具体的にどの辺まで進んでいるのか？人選を含めた“中身”的議論は始まっているのか？それとも、まだ言葉だけで「研究体制を作つて、広く議論したい」という程度なのか、現場での進捗状況を重ねて伺う。

総務課長 今現在、それぞれの所管において担当分野ごと（例えば障がい者差別禁止法の周辺や男女共同参画の部分等）に取組を行っている。全体を捉えての協議議論をする体制には至っていない。

町長 町長、今の答弁からすると目標（差別を無くす）に向かって行く姿勢を高らかに示す『宣言』を先にした方が役場内での議論形成は、しやすく成るのではないの

なぜ9月1日が「防災の日」なのか、それは関東大震災という大災害を教訓とするために選ばれた日である。関東大震災で多くの犠牲者が出たが、震災関連とは一線を画す犠牲者も沢山、発生している。デマを元にした主に朝鮮出身者への差別攻撃である。虐殺という文言を当てる場合も多いと思う。今、このことを「無かった」ことにしたい方々による歴史修正が堂々と行われる世の中になつて来ている。さらに、そういう主張をしている政党がこの夏の参院選で、この八雲町で800票以上の投票を得た事実に強い危機感を感じた。なので、ここで堂々と差別の無い町宣言をする、そしてその宣言に相応しい行動が、同時に後からでも示していく事が、今の時代だから必要だと思い質問した。

町長 議員の言われるとおり、まず宣言をして、その後に少しずつやつしていく方法も担当課と相談して検討してみたい。

総務課長 「差別の無い町宣言」によつて何が変わるのか、を町民に示す事をセツトにしたいのが本音だが、目前の議論を聴いて悩んでいる。

担当課を集めて宣言の可能性や進め方を議論してみたいと思う。

Q

津波警報が発表されて

見えた現状と課題は?

赤井 瞳美 議員

による避難者が多く、駐車場の確保や避難誘導看板の必要性を感じた。今回は平日の日中の津波警報だつたが、職員の安全確保に配慮しながら、限られた人員で災害対応に当たることの厳しさが明らかになつた。これが休日や夜中なら職員の参集も難しく、避難所の開設すらままならない状況に陥るのではと、改めて地震・津波災害による津波警報が日本にも発表され、浸水区域の多くの方が避難した。各避難所とそれ以外の区域、そして、災害対策本部において見えた現状と課題は?

町長 今回は、避難所として指定していらない施設に避難、要援護者の避難支援、国道・道道及び高速道路の交通規制、商店や事業者の閉店などから飲み物や食料の調達に支障が出た。また、自動車

カムチャツカ半島の地震にて、浸水区域の多くの方が避難した。

町民の皆様には、自分自身と家族の命と安全を守る自助の意識、厳しさを実感。

このまま維持することは、ほぼ不可能になつていくと思う。町長はじめ病院スタッフのみんなは、ずっと以前から医師や各スタッフの確保、患者輸送バス導入の検討、デジタル化など様々な努力をしていることは、みんなが理解している。

しかし、もう自治体の努力だけでは限界にきていくと思う。町長は今までの取り組みを通して、10年後も20年後も頼られる病院であるためには、どのような方法が必要だと考えるか?

町長 地域の基幹病院としての機能を維持するためには、医師をはじめとする医療従事者の確保が重要。とりわけ常勤医師の確保が

Q 病院を維持するには

今、自治体病院の9割が赤字だという報道もあるが、八雲町の病院も例外でない。電気代や物価の高騰による影響、近隣町を含む人口減少、内科医不足も大きく影響していると思う。しかし、今までの国の方針では、地方がどんなに頑張っても自治体病院をこのまま維持することは、ほぼ不可能になつていくと思う。町長はじめ病院スタッフのみんなは、ずっと以前から医師や各スタッフの確保、患者輸送バス導入の検討、デジタル化など様々な努力をしてい

常勤医師の確保には新幹線開業が一番だと思っていたが、2030年に新幹線が開業しなかつたのは大打撃。財政については、ここ数年は20億円あると行けると思うが、診療報酬が変わつたり、医療自体の環境が良くならなければ、その後はわからない。

自分は、本当に財政が厳しくなつたら、町長の給与を半分にして守る覚悟はあるが、赤井議員にもそうした覚悟はあるか?

報酬を0にしても
守ります!



進まない中、診療維持を出張医に頼らざるを得ない状況であり、極めて厳しい経営環境にある。現在、一般会計からの多額な繰入金により何とか維持されてきたが、なお余りある巨額の損失を計上する経営体質に陥っている現状。この現状を国や関係団体に何度も訴えているが、なかなか理解してもらえない。

Q 国道沿いに慰霊碑を建立できないか？

佐藤 ともこ 智子 議員

質問
主席

主体制的に設置することが難しいの
であれば、関係団体への働きかけ
やその時期前後に献花台を設ける
ことはできないか。

町長

自治体が慰霊碑を設置す
る事例は、戦争や地震・津波など
の大規模災害などのように、地域
全体に影響が及んだ場合に多く見
られる。

個別の交通事故については、遺族
や関係団体が主体となつて建立し、
自治体は設置場所の提供や維持管
理に協力することが一般的であり、
実際に八雲町に現在設置されてい
る慰霊碑や交通安全祈願塔につい
ても、遺族の方々や交通安全団体
が設置したものである。

しかし、物価は上がり、年金は
増えない中で生活が圧迫されてい
る現状にある。「福祉の町・八雲」と
してこれらの金額の引き上げ、対
象の拡充をすることはできないか。

町長

町では、物価高騰対策と
して、物価高騰支援給付金の給付
や、ひまわり商品券の発行など支
援をしている。

福社タクシー助成事業、高齢者
等入浴料助成事業、寝たきり高齢
者等おむつ利用券給付事業は、高
齢者や障がいがある方へ、費用の
一部を助成している福祉サービス

浜松の国道沿いには、交通事故
で亡くなつた方の慰霊碑が建立さ
れている。東野やバイパス入口付
近にも、同様の物が存在する。事
故の内容や設置者に違いはあるが、
遺族の方々が毎年お参りできるよ
うに、また、町内外への交通安全
の象徴として、八雲町として慰霊
碑を設置してはどうか。自治体が

Q 物価高騰に見合う 引き上げを！

問 物価高騰が止まらない。

福祉タクシー助成事業は、75歳
以上の町民税非課税世帯と障がい
のある方に1万2千円。高齢者等
入浴料助成事業は、満65歳以上の
高齢者と各種手帳を持っている方
に年間24枚、1回200円。寝たきり
高齢者等紙おむつ利用券給付事業
は、町民税非課税世帯に限り月額
5千円の利用券を給付している。

しかし、物価は上がり、年金は
増えない中で生活が圧迫されてい
る現状にある。「福祉の町・八雲」と
してこれらの金額の引き上げ、対
象の拡充をすることはできないか。

町長

このため、町が主体となつて慰
霊碑を建立することは難しいと考
えている。ただ、交通安全団体や
遺族の方などから要請があれば、
相談には応じるということで理解
してほしい。

町長は、検討し判断していくと
いうことだが、年内にその結果を
検討して、常任委員会の方にも提
示していただきたいと思うが、そ
ういうスピード感についてはいか
がか。

町長

町としてもこの数ヶ月前
から物価対策はしつかりしなけれ
ばならないとのことで幾度も協議
をしている。現金給付が良いのか、
商工会とタイアップしながらの商
品券が良いのか、どんな形が良い
のかを協議し、議会の常任委員会
にも相談しながら、この物価対策
はしつかりとやるべきと考える。

早急に対応を！

町政を問う

Q 防災について

横田喜世志議員

難者の対応にあたつた。防災行政無線等により高台への避難を呼びかけたと同時に役場に電話が殺到し、膨大な問い合わせの対応を余儀なくされ、時間とマンパワーを奪われる結果となつた。

初動体制に災害対策本部の役割を定期的に職員訓練を行うほか、北

海道防災情報システムと連動した情報発信の自動化を検討している。

また、徒歩、自動車避難のあり方、避難所の環境改善等の課題も

認識している。今後、防災会議を開催し、関係機関と多角的な視点で検証作業を進め、課題を一つ一つ改善していく。町民の皆様においても、自分と家族の命を守る自助の意識、共助の重要性を再認識

7月30日、カムチャツカ沖地震で津波警報が出され、太平洋側6、775世帯に避難指示が出された。八雲町では避難所が7箇所開設されたが、より高い所へ避難された方々も多數いた。今回を教訓として検証・調査途中だと思うが、情報伝達の迅速化、高台に避難した場合の安全対策、現場作業中住民の避難所受入態勢など現時点での改善点があれば伺う。

町長 津波警報の発令を受け、災害対策本部を設置し、避難所を開設するとともに、情報収集と避

問 施行に向け、園等と話をすることのことだが、園側として、余分に一人常駐させる体制がとれるのか。

町長 国からの負担金の額が示されていないが、園等を支援する事業や、保育士を確保する支援策を検討している。

Q 子ども誰でも通園制度について

問 こども・子育て支援法及び児童福祉法の改正により、令和8年度より全国の自治体で本格実施される予定になつていて。八雲町の実施スケジュール等について伺う。

町長 今後、町内保育施設等と意見交換し、来年3月の第1回定期会に条例案を上程し、議決後、事業者を募集する予定。

また、並行して子育て支援センターで4月から事業実施ができるよう進めていくが、運営基準により新たな保育所の配置が必要であり、人材を確保しなければならない課題もある。

議会を傍聴してみませんか

次の議会は、

令和7年第4回定例会

12月11日（木）午前10時から
開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

YouTubeで映像配信もします



Q

避難指示を発令して課題を

どのように把握するのか！

の裾野を広げていきたい。

避難指示発令により、ほかの地域では問い合わせが殺到し、対応に追われたと聞いた。八雲町はどうだったのか。

課長 役場の回線が10回線あるが、ほとんど電話が鳴りっぱなしで、どこに逃げたらしいのか、そ

そもそも逃げたほうがいいのかなど八雲町に判断を委ねるような内容や、車を持っていないがどうした
らよいか。という問い合わせが多くかかってきた。

電話殺到の要因は町民の意識の部分かと思う。意識改革をしていく活動、何かあつた時の避難所開設、運営を町民自らできるようになつていけるよう、防災マスターなどと、連携してほしい。

町長 危機対策課は交通も担当しており、職員不足は認識している。やれるところからやつていく

町としても関係機関と連携しながら防災人材の育成や自主防災活動に積極的に支援を行い、防災活動

くらち きよこ
倉地 清子議員

Q 増えるヒグマ被害に 町は住民の安心と ハンター

ハンターの負担への対応は！

問 生活圏に入つてくるヒグマ
目撃情報が相次ぐ中、町は町民へ

の注意喚起を行いながら対策を講じているが、人慣れや大きな音も

効果なく、人を怖がらないヒグマに対し、ますます危険性が身近に迫つており、ハンターの負担も大

きくなっている。町はどのようないくつかの対策を考えているのか。

町長 ヒグマの目撃情報が寄せられた際にはヒグマ出没情報管理

システム「ひぐまつぶ」に掲載、
町ホームページで公開、状況によ

り注意喚起の看板設置や警察、農協、教育委員会等の関係機関へ情報共有を行つてゐる。市街地周辺

など緊急性が高い場合は、警察と連携して周辺住民への注意喚起を

行い、町公式ラインや防災無線を活用し、周知を図っている。農作

物被害があつた場合や人的被害が懸念される場合には、箱ワナによ

る捕獲や銃器による駆除を行つて
いる。ヒグマによる被害を防ぐた
だ。

めにはヒグマを人里に近づかせないことが重要。電気柵設置の普及

いことが重要 雷電相談置の普及促進などを行いヒグマが出没しに

第3回定例会 令和7年度一般会計補正予算 4,867万2千円を追加 [補正後の総額を158億9,665万8千円]

第3回定例会は、9月4日から9月11日までの会期で開かれました。

補正予算、条例改正、専決処分の報告など追加議案を含め、議案9件、報告5件、同意1件、認定9件、発委3件、発議4件を審議し、いずれも可決しました。

補正の主な内容

- 多機能型交流施設新築工事実施設計業務委託料 1,343万1千円
- 八雲町リサイクルセンター火災復旧工事実施設計業務委託料他 2,443万9千円
- 障がい者医療費、障がい児入所給付費等の国庫負担金及び道負担金の過年度分返還金 608万7千円
- 議員報酬 303万5千円

株式会社青年舎の経営状況

令和6年度は、飼料等の資材価格の高騰による生産コストが高止まりする中、畜産経営への影響を緩和するため、飼料の共同購入や入札等による飼料仕入単価の低減、和牛受精卵の増産による副産物収入の確保、高能力牛群の整備による増頭、増産を推進してきた。

また、酪農畜産関係機関による経営分析・診断を受け、財務状況や財務指標の標準的な水準を把握し、経営改善に向けた取組みを実施した結果、191万6千円の当期純利益となった。

議会のうごき

《8月》

- 7日 総務経済常任委員会
- 21日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会

《9月》

- 1日 議会運営委員会
- 4~11日 第3回定例会
- 4日 総務経済常任委員会
- 5日 文教厚生常任委員会
- 11日 総務経済常任委員会
議会運営委員会
- 18日 文教厚生常任委員会

《10月》

- 9日 全員協議会
- 27日 会派代表者会議
全員協議会
- 30日 会派代表者会議

《11月》

- 4日 会派代表者会議
全員協議会
- 11日 臨時会（初議会）
総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
広報広聴常任委員会
議会運営委員会
全員協議会
- 20日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
広報広聴常任委員会
議会運営委員会

株式会社木蓮の経営状況

令和6年度は、本社部門として八雲町の企業版ふるさと納税に係る事務を中心とした業務を受託し、その結果11社／104万9千円の受託手数料を収入源とした他、八雲高校ビジネス科と連携した「八びす商店」でご当地みやげ「二味貝クッキー」の考案、制作依頼、町内イベントでの限定販売を行い、1万7千円の収入となった。

また、八雲商工会と連携した「合同企業説明会」を高校生及び一般向けに開催するなど多様な活動を行ったが、人件費等の販売管理費の増により1,195万6千円の当期純損失となった。

丘の駅部門は、町から指定管理を受託している八雲町情報交流物産館「丘の駅」の運営を担い、店舗での物販の外、デッキ販売や各種イベントへの積極的参加により、売上が1億1,415万3千円と過去最高となり、1,565万円の当期純利益となった。観光・交流促進部門については、前期に整備したサウナ・ドームテントなどキャンプ関連活用の増加による団体の受け入れに繋がり、18万4千円の当期純利益となった。

本部門は、これまでのノウハウや継続的な事業推進を図るため、令和7年度から独立・創業している。連結決算においては、「丘の駅」の営業実績が大幅に向上されたことにより279万円の当期純利益となった。

定例会・臨時会議件一覧

令和7年第3回定例会（令和7年9月4日～11日）			
議案第1号	八雲町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例	認定第2号	令和6年度八雲町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第2号	北海道市町村総合事務組合規約の変更について	認定第3号	令和6年度八雲町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
議案第3号	北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について	認定第4号	令和6年度八雲町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
議案第4号	北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について	認定第5号	令和6年度八雲町水道事業会計決算認定について
議案第5号	令和6年度八雲町下水道事業会計剰余金の処分について	認定第6号	令和6年度八雲町熊石地域簡易水道事業会計決算認定について
議案第6号	令和6年度八雲町農業集落排水事業会計剰余金の処分について	認定第7号	令和6年度八雲町下水道事業会計決算認定について
議案第7号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第3号）	認定第8号	令和6年度八雲町農業集落排水事業会計決算認定について
議案第8号	令和7年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	認定第9号	令和6年度八雲町病院事業会計決算認定について
議案第9号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第4号）	発委第1号	八雲町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発委第2号	八雲町ケアラー支援の推進に関する条例
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発委第3号	国土強靭化に資する社会資本整備等に関する意見書
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償額の決定について）	発議第1号	OTC類似薬の保険適用除外を行わないことを求める意見書
報告第4号	株式会社青年舎の経営状況の報告について	発議第2号	ゆとりある教育環境を実現する意見書
報告第5号	株式会社木蓮の経営状況の報告について	発議第3号	高等教育の学費軽減・奨学金返済の負担軽減を求める意見書
同意第1号	八雲町教育委員会委員の任命に関し同意を求めるについて	発議第4号	将来にわたり安全安心な医療・介護制度の提供を求める意見書
認定第1号	令和6年度八雲町一般会計歳入歳出決算認定について	議員派遣の件	
令和7年第3回臨時会（令和7年11月11日）			
議案第1号	財産の取得について	同意第1号	八雲町監査委員の選任に関し同意を求めるについて
議案第2号	令和7年度八雲町一般会計補正予算（第5号）	同意第2号	八雲町副町長の選任に関し同意を求めるについて

異議あり！

第1回定例会 賛否一覧（反対のあった議案を掲載）

議件名		採決結果	赤井睦美	佐藤智子	横田喜世志	大久保建一	関口正博	宮本雅晴	倉地清子	三澤公雄	牧仁	安藤辰行	斎藤實	能登谷正人	黒島竹満	千葉隆
議案第9号	令和7年八雲町一般会計補正予算（第4号）	原案可決	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発委第1号	八雲町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発議第3号	高等教育の学費軽減・奨学金返済の負担軽減を求める意見書	原案可決	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	○	○	

※議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

常任委員会 の活動

令和7年8月から10月の
各常任委員会の活動です。

科常勤医師の確保は極めて困難な状況から、スリム化を図り、国が定める給付条件の10床の削減を進める。

このことにより受けられる給付金は4,104万円。削減による影響はなく、削減後の病床数は300床となる。

開院当時より入院時の食事提供

は直営を維持し、きめ細かなサービスを提供してきたが、数年前より調理員の確保が困難を極め、さ

らに管理栄養士の確保についても

非常に厳しいことから苦渋の決断で、R8年度から調理部門を外部委託とする。委託期間は3年間。

業務委託業者の選定は、現在近隣

でも実績がある国内大手3社から

提案を受けている。調理員等の処

遇はできる限り継続雇用を望んで

いる。

また、町内における食材等の購入は、原則委託業者側の判断とな

るが、生鮮食料品等一定程度は地

元から購入するよう病院側として

も積極的に働きかけ、打診してい

る。

文教厚生

【総合病院からの報告より】

医療機関における病床削減に対する国からの給付金の内示があつたが、一医療機関当たり10床を上限、令和5年度から2年連続赤字の医療機関、令和7年9月30日までの間に病床削減という条件が示された。中央6階病棟が現状運用されなく、南2階病棟も稼働状況は5割から6割程度に加え、内

互いに支えあえるやさしい町に



【ケアラー支援条例を策定】

委員会としては条例の制定を通じて地域の実態を知り、本当に困っている方たちへこの条例の趣旨を伝え、公助はもちろん、共生共助ができる八雲町を目指し、これからも具体的な取り組みに繋げていかなければならぬと思つて

いました。

しかし、現在は核家族化が進み、高齢化等により地域の支え合いの力も弱まり、介護や看護による家族への負担がとても重くなっています。また、昔から「家族の事は家族で」という考え方もまだ

います。

一人ですべての事を成し遂げられる人はいません。困ったときには助け合るのは、当たり前のことです。この条例により、すぐに解決できるとは思つていませんが、いつもお互いに支え合える社会を目指していきます。

「手伝つて!」「疲れた!」という発信ができにくくなっています。

こうした状況の中、文厚常任委員会では、ケアラーが置かれている現状と課題、支援条例制定の意義を学び、ケアされる人もする人も誰一人孤立とすることなく、自分らしく心豊かな生活を送ることができることを目指して、ケアラー支援の推進に関する条例の制定に取り組みました。

八雲町議会 新体制が決まる。



切磋琢磨し、成長していく議会へ！

八雲町議会議長 大久保 建一



より開かれた議会を目指して！

八雲町議会副議長 宮本 雅晴

総務経済常任委員会

委員長	牧野 仁
副委員長	安藤辰行
委員	黒島竹満
委員	宮本雅晴
委員	横田喜世志
委員	三澤公雄
委員	水野博美

文教厚生常任委員会

委員長	横田 喜世志
副委員長	関口正博
委員	斎藤 實
委員	赤井睦美
委員	倉地清子
委員	小西雄一
委員	寺田広樹

議会広報広聴常任委員会

委員長	三澤公雄
副委員長	倉地清子
委員	赤井睦美
委員	関口正博
委員	水野博美
委員	小西雄一
委員	寺田広樹

議会運営委員会

委員長	赤井睦美
副委員長	三澤公雄
委員	牧野仁
委員	横田喜世志



【前列右より安藤辰行副委員長・牧野仁委員長・宮本雅晴】
【後列右より黒島竹満・横田喜世志・三澤公雄・水野博美】



【前列右より関口正博副委員長・横田喜世志委員長・斎藤實】
【後列右より寺田広樹・小西雄一・赤井睦美・倉地清子】



【前列右より倉地清子副委員長・三澤公雄委員長・赤井睦美】
【後列右より寺田広樹・関口正博・小西雄一・水野博美】

その他の条例委員等

監査委員	斎藤 實
渡島廃棄物処理広域連合議会議員	関口正博
寺田広樹	寺田広樹
南部桧山衛生処理組合議会議員	斎藤 實
都市計画審議会委員	横田喜世志
民生委員推薦会委員	倉地清子



町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

3期12年間八雲町政を担った岩村 克詔前八雲町長です。

Q 3期12年間本当にお疲れ様でした。
今のお気持ちは?

私が就任した当時、総合病院の不祥事、あわびの産地偽装問題が発生し、相当落ち込みました。しかし、その時に以前の助役さんが私にこう言いました。「町長、初めにこのような大きな問題が起こるという事は、あなたは大物になるということだよ。」と。私は、その時、その言葉の意味が分かりませんでした。後から考えると、「神様は超えられない試練は与えない！」と言われるように、「岩村だからこそ与えられた試練なんだ。」ということを伝えたかったのだろうと思いました。結果、当初につらい目に遭いながら乗り越えたことで、その後にもいろいろなことが起きましたが、落ち着いて対応することができました。やはり助役さんはすごい人だと思いました。

また、楽しいこともたくさんありました。その中でも名譽町民である大河原さんとの出会いは、この12年間の中でも大きいです。大河原さんの奥さんも女性の経営者ではトップで、財界との人脈も太くもたれています。いろいろな会合に行っても、大河原さんや奥さんの愛子さんを知っている、交流があるということで、当時の石破総理大臣、赤沢大臣など、多くの著名人と面識をもつことができました。今では、町長ではなく個人的に岩村克詔の活動に付き合うと言ってくれています。それは私にとってとても大きな財産です。

自分は大した人間ではないけど、出会いによって人は変わると思います。「類は友を呼ぶ」だから自分で自分の周りを見れば、自分の今の立場が分かると思っています。

16年前、町長選に出馬して落選した時には、消極的な気持ちになっていましたが、「町長でなくても、町のためになることはできる！」と気がつき、社会福祉法人を立ち上げ、色々なことを始めました。だから町長を辞めたとしても、町のために色々なことができると思っているし、町長でない分やりやすい面もあります。重いものが外れた感じで視野も広がったし、この12年間でたくさんの人々に巡り合ったことが本当に「宝」だと思っています。

また、八雲、森、鹿部、七飯、木古内、知内、函館市で勉強会を開催し、政策もいろいろ考えました。その仲間関係も良好で、町長として本当に楽しかったです。今後、議会の役割はさらに重要になっていくと思います。町長と議会がお互いに話し合って、みんなで決めたら八雲町のために取り組む。町長は責任を取るけど、議会だってある程度の責任を取ることは必要であると思います。



これから八雲町において大きな課題のひとつは総合病院です。私は、1期目は、何をやったかというと、予算書と決算書、病院の会計を全部読み込みました。いろいろ勉強しましたが、自治体病院は、現状のままでは、絶対赤字になるということが分かりました。優れた経営者でも医療は全く別物だと思っています。病院があることで、町民に安心感が生まれます。福祉の1丁目1番地はやはり病院だと思います。だから病院を守るには、やっぱり財政を守ることが重要。

経営者の哲学。本当は役場職員にも経営的な感覚が必要かもしれません。

今後、私がこれまで取り組んできたウイスキー、ワイン、サーモンの各事業。これらは、ある程度、退任してからもしっかりと責任を持って関わっていきながら、良い方向に持つて行きたい。

また、ふるさと納税でも、個人としてできることは協力していきたいと思っています。

岩村町長3期12年間の八雲町政のかじ取り、町のトップセールスマンとしての活躍に心から敬意を表します。

本当にありがとうございました。



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。

制作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

これまで広報広聴常任委員会は「広報」「コウホウ」「コ一ホー」と略され呼ばれてきましたが、これからは「広聴」「コウチヨウ」「コ一チヨー」と呼ばれる様に頑張ります。 (ソレは無理か?)

議会広報広聴常任委員会
委員長 三澤公雄

編集後記